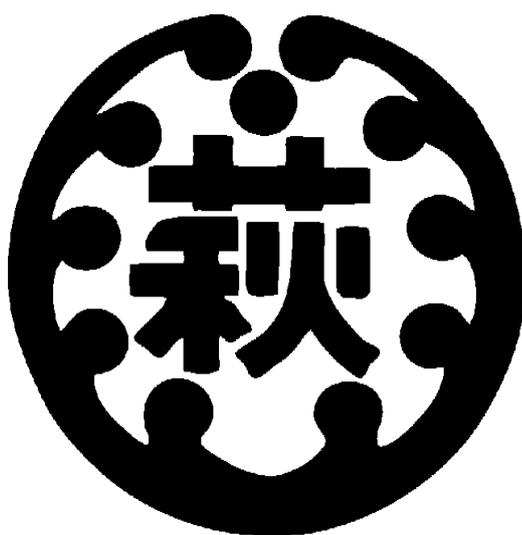


令和6年度

学校評価報告書



浜松市立萩丘小学校

1 学校教育目標と評価項目

(1) 学校教育目標

「いい顔 いい友 いい学校 ～かかわりの中で自分を磨く子の育成～」

(2) 付けたい力

よりよく学ぶ力 (課題対応能力)	かかわる力 (人間関係形成 ・社会形成能力)	ふみ出す力 (自己理解 ・自己管理能力)	なりたい自分を 考える力 (キャリアプランニング能力)
①単元構成(学習計画)の工夫する。 ②かかわる場の設定する ③振り返りの視点を明確にする	①進んであいさつをする。 ②かかわる場を設定し、互いの良さを認め合う。 ③自分の思いを伝え合い、協力して取り組む。	①活動の意義や意味をおさえ、物事を前向きにとらえて、取り組ませる。 ②自分に合った目標を設定し自分を律して続けさせる。 ③最後までやりぬき、成長した自分に気付かせる。	①なりたい自分の姿や目標をもたせる。 ②活動の見通しをもたせ、適切な支援をする。 ③活動の振り返りの機会を設定する。

これら4つの力は、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤を育成することをねらいとして、第3次浜松市教育総合計画でも進められているキャリア教育を軸として設定した。それぞれの力を付けるために重点項目をそれぞれ3つずつ設定し、教育活動のねらいと関連付けて指導を行った。

(3) 評価項目

①	子供は、安心して楽しく学校へ通っている。
②	子供は、課題に対して自分から考えようとしている。
③	子供は、学校で学習したことを概ね身に付けている。
④	子供は、友達を大切にして、仲良く生活している。
⑤	子供は、自分から進んであいさつをしている。
⑥	子供は、苦手なことでもチャレンジしようとしている。
⑦	子供は、自分で決めたことを最後までやりぬこうとしている。
⑧	子供は、目標や夢をもっている。
⑨	子供は、自分らしさを分かっている。
⑩	学校は、教育活動や子供の様子を分かりやすく伝えている。
⑪	コミュニティ・スクールの取り組みは、学校と家庭、地域のつながりを深め、子供たちの豊かな成長を支えている。

※ (3) 評価項目の評価を11月にアンケートで行い、児童510名・保護者563名・職員34名から回答を得られた。以降の資料は「そう思う」「大体そう思う」の肯定的な評価を合わせた割合(%)を示している。

2 自己評価

① 「よりよく学ぶ力」との関連

	評価項目	児童	保護者	職員
よりよく 学ぶ力	② 子供は、課題に対して自分から考えようとしている。	94	74	87
	③ 子供は、学校で学習したことを概ね身に付けている。	92	89	82

<アンケート結果の考察>

②「子供は、課題に対して自分から考えようとしている。」では、今年度、校内研修の視点を「出会う場面の工夫」とし、子供の気付きや問いを大切にして学ぶ意欲を引き出し、学習課題と子供たちをつなぐことを大切にしてきた。児童が学習のめあてを自分のこととして捉え、自分から考えようとすることができたため、児童の割合が高かったと思われる。

⑥「子供は、学校で学習したことを身に付けている。」は、7月の調査と比べて児童の割合が4%上がった。個に応じた指導を意識し、児童に分かる授業をすることを心掛けていることが成果として表れたと思われる

調査から考えられる強み

- ・ 校内研修の成果として、課題に対して自分から考える子が増えている。
- ・ 職員が個に応じた指導を行ってきたことによって、学習したことを身に付けていると感じている児童が多い。

調査から考えられる弱み

- ・ ②「子供は、課題に対して自分から考えようとしている。」では、保護者の値が低い。授業における取り組みは、成果が表れていても、家庭においては行動に表れていないことが考えられる。家庭学習の取り組み方に課題があるかもしれない。
- ・ 児童は学習したことを身に付けていると感じていても、職員はまだたりないと感じている。基礎的な学力の定着を図りたい。

② 「かかわる力」との関連

<アンケート結果>

評価項目	児童	保護者	職員
④ 子供は、友達を大切にして、仲良く生活している。	96	95	91
⑤ 子供は、自分から進んであいさつをしている。	81	74	56

<アンケート調査の考察>

④「子供は、友達を大切にして、仲良く生活している。」では、児童・保護者・職員の値が高い結果となった。これは、友達とのかかわりを重視した学校運営や、各行事や学校生活において友達のよさに目を向けたり、友達がいるからこそ成功につながる体験を繰り返したりしてきた結果であると考えられる。また、毎月「ピアの日」を設定し、学級や学年でピアサポート活動を行っている。ピアサポート活動を通して、友達のよさや自分との違いに気付くようになり、友達を大切にする意識を高めるようにしている。これらが④の友達を大切にすることや①の「安心して学校へ通っている（児童93%、保護者92%、職員100%）」の割合を高めることにつながっていると思われる。

⑤「子供は、自分から進んであいさつをしている。」では、他の項目と比べて低い結果となっている。特に、職員の値が前回（7月実施66%）より下がっている。登校時のあいさつ運動は6年生を中心に行っているが、その場ではできていても、他のあいさつへつながっていないのが現状である。来年度も「あいさつ」は重点項目の一つとして取り組みたいと思う。

調査から考えられる強み

- ・ 学校教育目標のサブタイトルにある「かかわりの中で自分を磨く」ことを意識して指導を続けてきたことにより、職員も同じ方向を向いて指導をすることができた。そのことにより、子供も友達を大切にすることができた。
- ・ いじめや問題行動にチームで取り組む体制が整っている。そのため、児童の安心感が向上し、職員も安心して対応することができている。

調査から考えられる弱み

- ・ あいさつ運動では元気よくあいさつしていても、日常のあいさつができていないと児童も職員も感じている。職員も下がってきたが、児童も2年間（4回実施）続けて下がり続けている。

③ 「ふみ出す力」との関連

<アンケート結果>

評価項目	児童	保護者	職員
⑥ 子供は、苦手なことでもチャレンジしようとしている。	82	68	83
⑦ 子供は、自分で決めたことを最後までやりぬこうとしている。	87	84	94

<アンケート調査の考察>

⑦「子供は、自分で決めたことを最後までやりぬこうとしている。」は、7月のアンケートと比較して、職員は5%割合が高くなっている。これは、2学期に運動会と学習発表会という大きな行事において、めあてを立て達成することができたことに起因すると思われる。また、学年によっては、児童が発表内容や構成を考える機会を設定し、自分たちで作り上げることができた。このことも、児童や職員の値を高めることにつながったと考えられる。

調査項目にはないが、職員から「給食の残食が多い」「学習が定着しない」等の意見が上がっている。これらのことが⑥「子供は、苦手なことでもチャレンジしようとしている。」に影響しているだろう。

調査から考えられる強み

- ・ 職員が付けたい力を念頭に置き、行事や活動の前に目標をもつ時間を設けることで、「めあて→取組→振り返り」という流れの指導を行うとともに、達成できる目標設定をすることができた。
- ・ 児童が今より少し頑張ることで達成できる目標を設定し、それを乗り越える機会を設定することができている。

調査から考えられる弱み

- ・ 自ら苦手なことにチャレンジすることができていない様子も見られる。職員が課題として感じている「残食が多いこと」や「学習したことが定着しないこと」などの改善に向けた取り組みを教育課程に組み入れることで、「チャレンジして良かった」「またチャレンジしよう」という意識を高めたい。

④「なりたい自分を考える力」との関連

<アンケート結果>

評価項目	児童	保護者	職員
⑧ 子供は、目標や夢をもっている。	88	77	100
⑨ 子供は、自分らしさを分かっている。	89	79	83

<アンケート調査の考察>

⑧「子供は、目標や夢をもっている。」では、運動会や学習発表会などの大きな行事の練習の前に、どの学年でも「その活動を通してどんな姿になってほしいのか」を全体に話す機会を設けた。そして、個人の目標を立てたり、毎時間の練習のめあてを立てたりするようにした。大きな行事で特に意識付けられたことから、割合が高くなっていると考えられる。⑧の項目は継続して調査しているが、職員が初めて100%になった。これは、今年度本校が「こども宇宙プロジェクト」に参加し、児童が目標や夢を書いて写真に撮ったためであると考えられる。目標や夢を書くにあたり、自分自身と向き合う時間が設けられ、現段階の自分自身をしっかりと見つめることができた。

⑨「子供は、自分らしさを分かっている。」は、今年度から調査を始めた。児童7月88%→12月89%であり大きな変化はないが、ありのままの自分を受け入れた上で、自己肯定感を高められるように今後も取り組んでいきたい。

調査から考えられる強み

- ・ 職員が、児童が「なりたい自分を考える」機会を設け、活動後に振り返ることを意図的に行うことにより、目標→振り返りという指導を、どの学年でも行うことができた。

調査から考えられる弱み

- ・ 自分らしさを児童が分かるためには、自分自身の課題だけでなく、よさにも目を向ける必要がある。良いこと見付けなどの取り組みは、各学級で行ってはいるが、さらに組織的に行うことができるように、教育課程の中へ組み入れる必要がある。
- ・ どちらの項目も保護者の値が低いのは、学校で頑張ることができている証拠とも見取ることができる。取り組みを保護者へ紹介する機会も増やしたい。

⑤ 全体にかかわる項目

<アンケート結果>

評価項目	児童	保護者	職員
① 子供は、安心して楽しく学校へ通っている。	93	92	100
⑩ 学校は、教育活動や子供の様子を分かりやすく伝えている。		86	100
⑪ コミュニティ・スクールの取り組みは、学校と家庭、地域のつながりを深め、子供たちの豊かな成長を支えている。	93	80	100

<アンケート調査の考察>

「いじめや問題行動にチームで対応できていて、ありがたい」という意見が職員から複数出ている。それが児童の安心感の向上だけでなく、職員が安心して対応できていることにつながっていると考えられる。①「子供は、安心して楽しく学校へ通っている。」の値が高いのは、その結果であろう。

今年度後半、ブログの更新頻度を上げるように職員が取り組んだ。そのためか、保護者から「子供の様子が分かってありがたい」という意見があった。

⑪「コミュニティ・スクールの取り組み」は、教育活動を充実させてくれていることを職員も児童も実感していることが分かる。職員は4回続けて100%である。萩っ子サポーターズクラブが、外部講師との連絡・調整を進めたり、授業のサポートのための保護者ボランティアを募集したりしてくれることで、児童の教育活動が大変充実していることに感謝している。

調査から考えられる強み

- ・ 職員の連携体制が整っている。問題が起きたときの迅速な対応や相談ができています。
- ・ コミュニティ・スクールの取り組みが学習を大変充実させている。

調査から考えられる弱み

- ・ 職員の中で、ブログを更新する意識に差が見られる。意識を高められるように、校内の体制を整えていく必要がある。

3 何でも相談カード（いじめ対応）について

萩丘小学校 生活アンケート(令和4年度～6年度)

		1 授業は、楽しい ですか？		2 友達と楽しく生活 できていますか？		3 学校生活は楽しい ですか？	
年度	時期	楽しい	楽しくない	楽しい	楽しくない	楽しい	楽しくない
4年度	1学期	95.1%	4.9%	97.4%	2.6%	97.8%	2.2%
	2学期	95.1%	4.9%	97.4%	2.6%	97.8%	2.2%
	3学期	97.5%	2.5%	98.8%	1.2%	98.8%	1.2%
5年度	1学期	95.6%	4.4%	97.8%	2.2%	98.3%	1.7%
	2学期	96.7%	3.3%	97.6%	2.4%	97.5%	2.5%
	3学期	96.7%	3.3%	97.9%	2.1%	97.9%	2.1%
6年度	1学期	94.5%	5.5%	96.7%	3.3%	96.2%	3.8%
	2学期	94.5%	5.5%	97.7%	2.3%	97.0%	3.0%
	3学期						

1番目の「授業は楽しいですか？」は、「楽しい」、「どちらかという楽しい」を合わせた「楽しい」が94.5%になっている。「どちらかという楽しくない」、「楽しくない」を合わせた「楽しくない」は、5.5%だった。1学期と同じ高い結果だった。

2番目の「友達と楽しく生活できていますか？」は、「楽しい」が97.7%、「楽しくない」が2.3%だった。こちらは1学期よりも高い結果だった。「楽しくない」と答えた人は、友達とのトラブルを理由にしていることが多かった。

3番目の「学校生活は楽しいですか？」は、「楽しい」が97.0%、「楽しくない」が3.0%だった。こちらも1学期よりも高い結果になりました。アンケートでは、学習や友達関係での悩みが多いことが分かった。

萩丘小学校のいじめ（高学年）

年度	時期	訴え 件数	悪口	仲間 外れ	軽くたか かれる	ひどくた たかれる	ものを とられる	ものを こわされ る	いやな こと	服をめが される	パソコン	かげ口	その他
6年度	1学期	125	31	10	31	15	3	4	4	4	2	13	8
	2学期	106	31	7	17	11	0	1	8	2	1	17	11

萩丘小学校のいじめ（低学年・にこほほ）

年度	時期	訴え 件数	悪口	仲間 外れ	たたかれ る	ものを とられる	いやな こと	服をめが される	パソコン	かげ口	その他
6年度	1学期	139	34	13	29	4	13	8	5	8	25
	2学期	72	16	8	12	6	8	4	1	8	9

今年度から、年間3回の、タブレットを使った「はままついじめアンケート」に調査方法が変わった。内容では、高学年・低学年ともに「悪口」が最も多く、「たたかれる」「かげ口」「仲間外れ」と続く。

生徒指導主任から全校児童に向けて、以下のような話をした。

「相手がいやだなと思うことは、すべていじめです。やっている自分は遊んでいたり、ちょっとふざけたりしているつもりでも、相手が傷ついていたり、嫌な気持ちになっていたりしたら、それはいじめです。どんなことがあっても、いじめは絶対に許されません。いじめは、いじめられた子はもちろん、いじめている子も、周りで見ている子もみんな傷つきます。相手の気持ちを考え、人がいやがることをしない、言わない、そのことを守っていきましょう。

相手に腹を立てることがあっても、すぐに暴力をふるうのではなく、まずは落ち着いて、自分の思いを相手に伝えるようにしましょう。思いを優しい言葉で伝え合うことで、互いに嫌な思いをしなくてもすむことは少なくありません。話し合っ解決できるようになれば、いじめは少しずつ減っていくと思います。もし、いじめを受けたり見たりしたら、先生や家の人に相談しましょう。もし、いじめの場面を見た子がいたら、勇気を出してすぐに先生やおうちの人に知らせてください。知らせることで、つらい思いをしている子を助けることができます。知らせることは、正しいことです。いじめはしない、させない、見逃さない、いじめストップです。」

4 学校関係者評価

2月17日（月）に開催した学校運営協議会において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告した。委員からは以下のような意見があった。

- ・ 萩丘地区の子供たちの様子を見てみると、協調性は高いが自立する力が弱い。「勉強」についてさえ、自分のこととして捉えるのではなく他の理由にしてしまう。自分のこととして考えるために、失敗を通して成功する体験を重ねたい。
- ・ 地域と子供の関わりが少ない。保護者の意識も低いのかもしれない。地域は私たちが盛り上げたい。幸会館で遊ぶ子がいるのは良いが、下校時に寄っている子もいるため、声を掛けていく。
- ・ 子供が達成と考える規準と大人が達成と考える規準が異なるため、児童と保護者の値に差が開く項目がある。子供の表れが大人からどのように見えているのか、その場でフィードバックする必要がある。
- ・ あいさつは、地域の大人からの声掛けも大切。
- ・ いじめ発生件数や程度について心配があったが、対応できていることが分かった。アンケートが記名ということで、被害を受けている児童を把握できているので、今後も続けてほしい。

5 来年度に向けて

自己評価と学校関係者評価を基に、できていることは継続して行い、課題となる点について改善を図る。

- ・ 職員が学校教育目標と「付けたい4つの力」を理解し、同じ方向を向いて指導している。そのため、児童も付けたい力を意識することができている。しかし、具体的にどのような場面で教師が意図的に指導するかについて不明確な点が残った。そこで、重点項目を具体的に示し、職員も児童も、より場面を意識して取り組めるようにする。
- ・ 職員がチームで生徒指導対応をするとともに、保護者や地域と連絡を取り合いながら指導を行っている。このことにより、個別の生徒指導対応（いじめ対応も含む）が機能し、児童が安心して生活できることにつながっている。生徒指導の体制を継続したい。
- ・ 家庭学習を、児童が課題意識をもって取り組むことができるようにすることで、家庭においても、課題に対して自ら考えられるようにしたい。
- ・ 学力向上に向けた取り組みを全校で行うようにする。
- ・ 児童が主体となって取り組んだ運動会や学習発表会、学級における自主的な活動などは、困難なことがあっても粘り強く取り組む姿が見られた。苦手なことでも、自分たちでめあてを決めて取り組む機会を意図的に設定することで、活動を自分自身のものにしていくとともに、やり抜くことができるようにしたい。
- ・ 各行事や特別活動の中で、失敗を通して児童自らが試行錯誤し、成功する体験ができるように、教師が場面の設定したり、タイミングを見計らって支援したりする。
- ・ 自己肯定感を高めるとともに、自分らしさの理解を深めるために、良いこと見付けを全校で行いたい。
- ・ コミュニティ・スクールの取り組みは大変充実している。継続できるように、体制を整えたい。
- ・ 家庭との連携を深めるために、全学年のブログ更新の回数をより増やすとともに、参観会の後に、学校と家庭が意見交換できる場（座談会）を充実させたい。